

はじめに

これからの社会では、I o Tで全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出していくことや社会の変革(イノベーション)により様々なニーズに対応していくことが期待されています。一方では、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が多く残されているのが現状です。また、コロナ終息後に起こる社会の変化も予想以上のものになるかもしれません。

その様な時代を生き抜くために、様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決することが求められます。

学校教育には、それらの基盤となる力を付けることが期待されており、教師は、時代の流れを読み、生徒の実態や取り巻く環境を踏まえた教育実践を行うことが求められます。そのためには、日頃からの教育研究は必要不可欠と考えます。

本校は、令和3年度に創立91周年を迎えた全校生徒100名の普通科の高校です。小規模ですが、生徒の多岐にわたる進路希望の達成や、これからの社会で生き抜くために必要な力の獲得には、生徒自身の意欲と合わせて、そこに関わる教師の創意工夫が大きな影響をもたらすと考え、教育活動に取り組んでいます。

この「古仁屋紀要」第16号には、本校職員の創意工夫の一端が掲載されていますので、御一読いただき、今後の教育活動の参考にしていただければ幸いです。

終わりに、この「古仁屋紀要」第16号のHPへの掲載にあたり、多忙な中、執筆・編集に当たった先生方に心から感謝申し上げます、あいさつといたします。

鹿児島県立古仁屋高等学校  
校長 重吉 和久